

光円寺報

2012年 5月

〒679-2323 兵庫県神崎郡

市川町甘地384

後藤明照・由美子（惟蓮）

Tel & fax 0790-26-0162

Email kouenji_dayo@nifty.com

<http://Kouenji-hou.com/>

通信費年間 1000円

どんな絶望的なことが起きても

私たちは

子どもを守る

未来を守る

未来を

作って行く

椎名千恵子



仏教徒宣言 その九十九

風薫る五月、この風に気持ちよく身を預けている人もあるのでしょうか、昨年からのこの風によって運ばれる花粉や塵埃に取り付いた放射性物質による内部被曝を心配される人も居られる中、先日、五日の子供の口を迎えました。奇しくもこの日は、全原発停止となり、これから子供のことを思えばこの国では原発の電気は、いららないのだということが表現されたかのようでした。

しかし、この日にたどり着くまでに大変な事態を経験し、今尚、被ばくの不安を抱え、怯え苦しむ生活を私たちは、強いられています。振り返れば、大阪の万国博覧会に「原子の灯」が点されてから四十二年、その間、安全神話と経済至上主義の下、五十四基もの原発が日本列島を取り囲むように林立していったのです。そして殆んど国民は放射能の怖さ、原発の危うさ、原発事故の甚大さ、被ばくの恐ろしさ、深刻さを、知らされることなく、同時に知らうともせず、に生活をしてきたのです。が、福島原発の事故が、今までの私たちの生活全てが、虚構の上に成り立っていたということ、白田のもとに晒されたのです。

だから、三・一一の原発事故以降、日本各地で被曝を強いる原発の存在そのものを問い、考える人たちが増え続けているのです。それに気付いた人が、行動してきた当然の結果として、「全原発停止」が実現したと言えるのでしよう。そして、次のステップ「廃炉」に向け表現し続けています。

しかし、原発を再稼働させる思惑を持った人たちの世間に対する働きかけも、萎えることはないようです。「この夏、集団自殺するようなものだ。」とか「計画停電」と言った、脅しとも言える言葉でもってなりふり構わず必要性を強調しています。原発の不要必要と、どちらも同じ人間同士の中で起きていることです。そして、この対立はどこから起きているのでしょうか。不要の立場を取っている人たちの多くは、「のち」が傷つけられ、奪われかねない。特に小さな子どもたちの未来に、立場に身を置き表明し、逆に必要の立場を守るようとしている人たちは「経済」が大事だということ、必要性を迫っています。「この経済の基盤をなすのが安定し

た電気の供給だと言ひ、それを担ってきたのが原発で、より安全に安全を重ねながら「安全な原発」から動かして行くことが日本の経済、延いては個々の生活の向上に継いで行く。そんな青写真が描かれているのです。が、そもそも「経済活動」と「のち」を並列して二者択一的な発想思考が問われるべきなのではないでしょうか。

本当に大切に守つていかなければならない「大事」を見失つた、こんな私のあり方を仏教では、「濁」といつ言葉で教えています。阿弥陀経に、「五濁」が説かれ、「劫濁」「見濁」「煩惱濁」「衆生濁」「命濁」とあります。

濁りと言つて、黒く濁るとか、白濁をイメージします。河川でも雨がたぐさん降したあとに泥が混ざり込んで濁流と化し、川底も中の様子も何も見えなくなる。又、白内障を患つた人は、白く霞んで見えにくくなつたと聞きます。「このように、濁りは物事をはつきりと見極めることを妨げるといつては、又、留まつたり停止したりすることが、濁りを生み出します。それは、原発安全神話や必要神話を信じて思考停止に陥つてしまふ、大きく多数といつ方に偏つてしまふものが私の中に宿つてしまふことを知らされます。濁りによつて私が見るべきものを見失ひ、聞くべきことを聞き漏らし、感じるべきことに不感症になつてしまつてゐる。そんな私になつてはいないかといつ事を、五つの濁りが教えます。「劫濁」とは、現代といつ時代そのものが濁つてゐる。まさに今、見えない放射能に侵され、濁つてゐることも判らなくなつた現代を現してゐます。そしてその放射能被曝に対して様々な見解が飛び交ひ、益々人が翻弄されてしまつてゐるありさまが「見濁」です。次に、貪り怒り人の浅ましさが露になり煩惱に困つて人間関係が分断されてしまふ「煩惱濁」。「衆生濁」とは、人間としての資質が低下し、お互いの違いを認め合つたり、尊重出来なくなり、人間の器が小さくなつてしまふ。そして、放射能による被ばくで、命が傷つき蝕まれ当たり前にいのちが終わつて行く、全うするといつことが困難になつてしまつたのが「命濁」だ。と言ひ当ててゐます。

まさに五濁に染まつた私に、念仏がはたらきかけます。濁りの中に押し込められた現実を見聞き感じよと。

南無阿弥陀仏

釈明照

あとからくる者のために

坂村真民 (『詩集・詩国』より)

あとからくる者のために

苦勞するのだ

我慢するのだ

田を耕し

種を用意しておくのだ

あとからくる者のために

しんみんよお前は

詩を書いておくのだ

あとからくる者のために

山を川を海を

きれいにしておくのだ

ああ後からくる者のために

みんなそれぞれの力を傾けるのだ

あとからあとから続いてくる

あの可愛い者たちのために

未来を受け継ぐ者たちのために

みな夫々自分でできる何かをしてゆくのだ



詩 中島哲演さん3. 25朗読
写真 飯館村 (飯館村HPより)